

## 30年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 8月1日～ 30年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は16社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
入荷動向	スギ	△ 35.0	10.0	25.0
	ヒノキ	△ 25.0	6.3	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	50.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	△ 5.6	11.1	16.7
	ヒノキ	△ 12.5	12.5	14.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 25.0	△ 6.3	12.5
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	8.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	50.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材用原木の入荷動向は8月の減少から9月、10月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは8月の増加から9月、10月は横ばいに。

・スギ、ヒノキの消費動向は8月の減少から9月、10月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは8月の横ばいから9月は増加、10月は再び横ばいに。

・スギの在庫動向は8月、9月の減少から10月は増加に。ヒノキ8月の減少から9月は横ばい、10月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは8月の増加から9月、10月は横ばいに。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/8月	9月	10月
スギ	35.0	30.0	20.0
ヒノキ	37.5	25.0	25.0
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキの原木価格動向は、出材少なく強含み。

・カラマツ、トドマツとも横ばい推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・伐採時期に入りトドマツの入荷順調。原木に合わせた消費（北海道）。  
・カラマツは昨年並み、トドマツは国有林のシステム販売材の入荷が始まる。現状、消費動向に大きな変化ない。在庫動向はカラマツは横ばい、トドマツはシステム販売材の入荷により増加（北海道）。  
・対前年比では若干の入荷減少の傾向にある（東北）。  
・翌月から市場への取材量が増加すると予想するので、当月はスギの仕入をやや減少させている。製材量はほぼ横ばいで推移（東北）。  
・来月からスギの伐採が始まるので、入荷は若干増える見通し（関東）。  
・秋に向けてヒノキ丸太の入荷、消費を増やす予定。在庫は8～9且横ばい若しくはやや減少（中国）。  
・天候が良いので原木入荷は順調だが、秋需の頃に長雨で原木不足が起きるのではないかと。消費動向は変化はないが、人員不足のため全ての機械を稼働できない日がある。在庫動向はヒノキ14～16×4mの土台用が不足している（中国）。  
・災害の影響で出材が減っている。回復までもう少しかかりそうだ。相変わらず入荷即製材という状況が続いている。在庫は仕入、消費に連動している（中国）。  
・猛暑の影響もあり、出材するにもできない状況が続いているようだ。大雨による被害が影響しているのではないかと（九州）。  
・8月の天候不順と盆休みのため入荷・消費ともやや減少。9～10月は順調に入荷・消費できる見込み（九州）。

(原木価格)

- ・トドマツ丸太は高値安定（北海道）。
- ・3m柱材については、猛暑の影響により虫害を受けにくいことなどもあり、スギ、ヒノキとも前月より価格が上昇している（東北）。
- ・スギは15,000円を付け高い（関東）。
- ・ヒノキ丸太の出材は増えてくると思うが、価格は下がらない（中国）。
- ・来月から原木単価がやや上昇すると予想（中部）。
- ・スギ、ヒノキとも入荷減につき強含み（中国）。
- ・スギの径級にもよるが、出材不足で高騰が続いている。今後の状況にもよるが、ある程度高値キープしていくのではないかと（九州）。
- ・原木出荷が少ない上、買い気あり（九州）。

## 30年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
生産動向	スギ	△ 15.0	20.0	25.0
	ヒノキ	△ 18.8	12.5	18.8
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
出荷動向	スギ	△ 15.0	25.0	25.0
	ヒノキ	△ 21.4	7.1	14.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	50.0	50.0
在庫動向	スギ	△ 10.0	△ 5.0	△ 5.0
	ヒノキ	△ 21.4	△ 7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ、ヒノキ製材品の生産動向は8月の減少から8月、9月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは7月の横ばいから8月は増加、9月は再び横ばいに。

・スギ、ヒノキ製材品の出荷動向は8月の減少から9月、10月は増加に。トドマツは8月の横ばいから9月、10月は増加に。

・スギ製材品の在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキは8月、9月の減少から10月は横ばいに。カラマツは3カ月連続減少。トドマツは8月の横ばいから9月、10月は減少に。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
スギ	柱角 KD10.5×3	15.0	25.0	20.0
	柱角 KD12×3	11.1	5.6	11.1
	通し柱 12×6	8.3	0.0	0.0
	桁角	0.0	6.3	6.3
	母屋角	18.8	6.3	6.3
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	10.0	5.0	5.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	8.3	16.7
柱角 KD12×3		8.3	8.3	8.3
土台角 10.5×4		0.0	14.3	14.3
土台角 12×4		0.0	7.1	7.1
通し柱 12×6		10.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	12.5	12.5
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	50.0	

・スギ柱角KD10.5×3、12×3、母屋角は強含み。その他の品目は保合。

・ヒノキ柱角KD10.5×3、土台角10.5×4、ラミナは強含み。柱角12×3、土台角12×4、通し柱は保合。

・カラマツ梱包仕組み板、カラマツラミナは横ばい。

・トドマツサンギは強含み。

## モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツ製品はこれから需要期に入る（北海道）。
- ・8月は稼働日数が少ないが、製材品の引合いは強い。9～10月にかけて更に上がる見込み。8月現在、在庫が不足しているが、秋口までは強く見込む。9月以降増産予定（東北）。
- ・翌々月までの全体の生産量については見通しが難しいが、スギやや増加、ヒノキは横ばい。
- ・原木在庫が少ないので、スギ、ヒノキ製材品とも出荷減の見通し（関東）。
- ・ヒノキ製材品の生産・出荷動向は8月は横ばいだが、9～10月は増える見込み。在庫は横ばい若しくはやや減少（中国）。
- ・8～9月に仕事量が増えるとハウスメーカーから連絡あったため生産やや増加。出荷動向は原木不足、人員不足による納期遅れが懸念される。在庫動向は、ヒノキ原木を集中して集荷したため、一時的にヒノキ3m柱の在庫が増えた（中国）。
- ・受注は安定しておりスギ、ヒノキ製品とも作っただけ売れている状況（中国）。
- ・猛暑につき残業中止、ヒノキ製材品の生産やや減少。順調にヒノキ製品の出荷ができています（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・秋にトドマツサングの値上げ模索(北海道)。
- ・スギ柱角(KD) 10.5cm×10.5cm×3mは引合い増。在庫不足に伴い8月より値上げの案内。4寸系の引き合いも強くなり、また母屋角に関しては九州材の影響もあり全体的に値上げ。ヒノキ土台角は通年で安定した引き合いが続く。スギ集成柱角については、対前月比若干出荷減となったが、対前年比では増加傾向。ハウスメーカー向け安定価格での出荷がメイン(東北)。
- ・製材品価格はスギ、ヒノキとも横ばいを続けるのではないかと(関東)。
- ・スギの出荷価格は横ばい(中部)。
- ・ヒノキ製材品は前提的には少し上がると思うが、大きくは上げきれないと予想(中部)。
- ・スギの単価は横ばいだが、3m柱については10.5角のみ上昇傾向。ヒノキ10.5角3~4mは来月以降上昇傾向(中国)。
- ・スギ、ヒノキの柱角は品不足の影響で値戻しが通り出した。土台角は変わらず横ばい(中国)。

## 30年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

## イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
仕入動向	米マツ丸太	△ 100.0	100.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 100.0	100.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 100.0	100.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は8月の減少から9月は増加、10月は再び減少に。  
 ・NZラジアータは仕入、消費、在庫動向とも横ばい推移。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/8月	9月	10月
米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太、NZラジアータ丸太とも原木価格動向は横ばい。

## モニターからのコメント

## (原木荷動)

- ・西日本豪雨により製材品が減産となるため入荷調整をした。
- ・NZラジアータ丸太は年間の不需要期に当たるため、入荷、消費、在庫とも横ばいで変動なし。

## (原木価格動向)

- ・NZラジアータ丸太は年間の不需要期に当たるため、原木の購入価格に変動なし。横ばい。

30年8月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
生産動向	米マツ製材品	△ 100.0	100.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	△ 100.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産、出荷動向は8月の減少から9月、10月は増加に。在庫動向は8月の減少から9月は増加、10月は横ばいに。  
 ・NZラジアータ製材品は生産、出荷、在庫動向とも3カ月連続横ばい推移。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツの出荷価格動向は平角、正角、小割とも横ばい。  
 ・NZ梱包材（割板、割角）、土木用材とも横ばい。

## モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・西日本豪雨により米マツ製材品減産となる。8月より徐々に回復予定。
- ・NZラジアータ丸太は年間の不需要期に当たるため、生産、出荷、在庫とも横ばいで変動なし。

(製材品出荷価格動向)

- ・NZラジアータ丸太は年間の不需要期に当たるため、製品の出荷価格は梱包材（割板、割角）、土木用材とも変動なし。